

組織の自己変革能力獲得のための マネジメント

KEYWORDS オペレーションマネジメント、ルーティンダイナミクス、ダイナミックケイバリティ



CATEGORY

スマート社会

個人研究

研究者紹介



コンピュータサイエンス学部

准教授 山口淳

主な学会発表

論文・著書・社会活動

- 【1】株式会社桃谷順天館 岡山工場 (A) - 2004年～2012年の改善活動の歩み - 『慶應義塾大学ビジネススクール・ケース, 2022/8, 全43ページ(共著)』
- 【2】株式会社桃谷順天館 岡山工場 (B) - 2013年～2018年の改善活動の歩み - 『慶應義塾大学ビジネススクール・ケース, 2022/8, 全16ページ(共著)』
- 【3】"Clarifying the content of long-term sustaining kaizen activities from the perspective of the routine dynamics theory". Proceedings of the 6th World Conference on Production and Operations Management, 2022/8, pp.605-614 (共著)

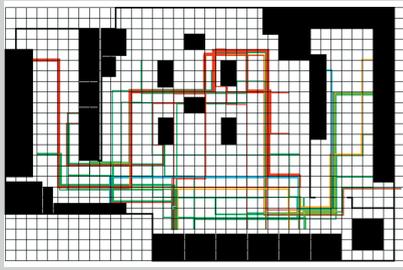
<https://www.teu.ac.jp/info/lab/project/com/dep.html?id=180>

01 製造現場における改善活動長期継続事例の研究



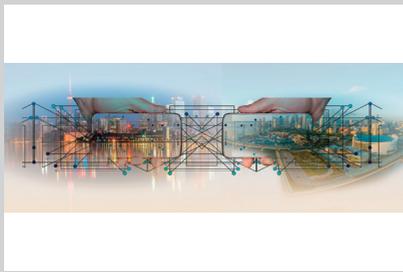
日本の製造現場における改善活動は、KAIZEN や Lean Production System という言葉とともに、概念や方法論が海外に輸出されて、研究面でも国際的に近年活発さが増す領域となっています。このような改善活動を10年以上の長期に継続している企業を対象として、日々の改善活動の実施と、時に改善活動の方向性の大きな変化を両立させるための能力やその獲得に至るマネジメントを研究しています。

02 現場の安定と変化を生むルーティンの動的状況



環境変化がある中で現場が安定したオペレーションを実施することに寄与するのが組織ルーティンです。一方で、理論からはルーティンは変化の始端ともなり、変化の阻害要因にもなるとされています。ルーティンの変化の様子、そして変化が妨げられる状況を解明し、大きな経営環境変化に対応するダイナミックケイバリティ(企業の自己変革能力)を獲得するためのマネジメントへの示唆の提示を目指しています。

03 DX・自動化と現場のフレキシビリティ



近年、経営においてIndustry 4.0やDXなど高度な自動化が注目されており、それらは組織ルーティンの定着や制裁に寄与します。一方で、自動化はルーティンの変化を妨げて現場の柔軟性を奪い組織の自己変革能力の阻害要因にもなります。現場の柔軟性を確保する自動化のあり方を分析しています。

想定される活用例、相談可能な分野

- 自組織に適した自動化(DX・プロセスマイニング)をサポートします。
- 自組織の強みを踏まえた中期経営計画策定を支援します。